

3. 植物調査結果の概要

3. 植物調査結果の概要

(1) 分布状況から見た河川環境の特徴

今回とりまとめを行った 32 水系 32 河川で確認された植物は、187 科 2,513 種でした。確認種数が多かった河川は、中国地方の江の川で 1,146 種、次いで九州地方の大淀川で 788 種と遠賀川で 780 種等でした。

(2) 特定種一覧 (資料 II.3.1)

今回とりまとめを行った 32 河川で確認された特定種は、レッドリスト絶滅危惧II類に指定されているノダイオウやタコノアシ、準絶滅危惧種のミゾコウジュやカワチシャ、ミクリ等 261 種でした。

(注) 特定種について

本資料においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を特定種としました。

- 「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種及び緊急指定種
- 「自然公園法」の指定植物
- 環境省(庁)編「日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブッカー」掲載種(2000)

(3) 外来種一覧 (資料 II.3.2)

今回とりまとめを行った 32 河川で確認された外来種は、290 種でした。このうちの約 4 分の 1 にあたる 81 種は、半数以上の河川で確認されていました。

(注) 外来種の選定基準について

本資料における外来種とは、おおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物全てを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、困難な種があるため選定の際に考慮していません。また、外来種の選定には、資料 I. 5(44~45 ページ)に掲載した文献と学識者による意見を参考に行っています。

(4) クロバナエンジュ(イタチハギ)、ハリエンジュ(ニセアカシア)、アレチウリ、ブタクサ、オオブタクサ、カモガヤ、シナダレスズメガヤ、ネズミムギ、ホソムギの確認状況の経年比較 (資料 II.3.3)

確認状況の概要は、20~21 ページに、これら選定項目の河川ごとの経年確認状況についての比較表は 101 ページに掲載されています。